

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業社名 ・伊那バス(株) 運行系統名 ・若宮・美原 (若宮・美原・手良・福島 循環バスの一部)	アピタ伊那～美原5～アピタ伊那	【前回の事業評価結果】 【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。 【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。 【4】利用促進の取組を継続する。 【反映状況】 【1】高齢者教室等での説明を実施した。 【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園) 【3】曜日毎の利用状況確認等を実施した。 【4】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることができる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	C ・R2年度目標7.04人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は6.38人/1運行であり、未達成(参考:R1年度7.16人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・通勤や買い物等での利用により、利用者は一定程度定着しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。	・引き続き市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する ・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮) ・上記のほかにも利用促進策として、1回10円でバスに乗車できる「10円バスの日」や運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度についても継続的に取組みながら、新たな利用促進策についても検討を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)
事業社名 ・伊那バス(株) 運行系統名 ・若宮・美原・手良・福島 循環バス	本社前～美原5～中坪～アピタ伊那	【前回の事業評価結果】 【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。 【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。 【4】利用促進の取組を継続する。 【反映状況】 【1】高齢者教室等での説明を実施した。 【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園) 【3】曜日毎の利用状況確認等を実施した。 【4】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることができる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	C ・R2年度目標7.04人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は6.38人/1運行であり、未達成(参考:R1年度7.16人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・通勤や買い物等での利用により、利用者は一定程度定着しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。	・引き続き市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する ・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮) ・上記のほかにも利用促進策として、1回10円でバスに乗車できる「10円バスの日」や運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度についても継続的に取組みながら、新たな利用促進策についても検討を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業社名 ・伊那バス(株) 運行系統名 ・富県・東春近地区循環バス	本社前～北福地～中殿島～本社前	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園)</p> <p>【3】バスの利用状況調査を実施し、地域の公共交通のあり方の検討を進め、R3.4月から乗合タクシーの運行に移行することとなった。</p> <p>【4】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることができる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	C <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度目標3.41人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は2.65人/1運行であり、未達成(参考:R1年度3.48人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3.4月から当該路線バスに代わって運行を開始する乗合タクシーについて、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 ・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業社名 ・伊那バス(株) 運行系統名 ・新山・桜井・貝沼線	伊那営業所～宮原～場広～伊那営業所	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】「守り育てる会」の活動を支援し、利用促進等の取組を進める。</p> <p>【4】地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【5】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園)</p> <p>【3】地域外へのバス利用の呼びかけに加え、地域内への呼びかけにも注力し、利用の定着を図る等の守り育てる会の活動を支援した。</p> <p>【4】バスの利用状況調査を実施し、地域の公共交通のあり方の検討を進め、R3.4月から乗合タクシーの運行に移行することとなった。</p> <p>【5】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることのできる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	C <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度目標4.04人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は1.68人/1運行であり、未達成(参考:R1年度 3.99人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3.4月から当該路線バスに代わって運行を開始する乗合タクシーについて、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 ・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業社名 ・ジェイアールバス関東(株) 中央道支店 運行系統名 ・茅野・藤沢線</p>	<p>高遠～松倉～古屋敷 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】</p>	<p>【前回の事業評価結果】 【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。 【3】「守り育てる会」の活動を支援し、利用促進等の取組を進める。 【4】地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。 【5】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】 【1】高齢者教室等での説明を実施した。 【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園) 【3】沿線地域での利用者増を目的とした周知チラシの作成・配布等の活動を支援した。 【4】地域の公共交通のあり方の検討を進める中で、乗合タクシーの導入についても検討を行った。(継続中) 【5】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることのできる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p>	<p>C ・R2年度目標6.05人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は3.30人/1運行であり、未達(参考:R1年度5.05人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 ・過疎や通学利用の児童生徒の減少に伴って利用者が減少していることも考えられる。(小中学校よりも遠距離となる高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。)</p>	<p>・引き続き市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する ・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮) ・上記のほかにも利用促進策として、1回10円でバスに乗車できる「10円バスの日」や運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度についても継続的に取組みながら、新たな利用促進策についても検討を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業社名 ・ジェイアールバス関東(株) 中央道支店 運行系統名 ・三義・長谷循環バス</p>	<p>高遠～非持山～高遠 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】</p>	<p>【前回の事業評価結果】 【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。 【3】「守り育てる会」の活動を支援し、利用促進等の取組を進める。 【4】地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。 【5】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】 【1】高齢者教室等での説明を実施した。 【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した。(富県、竜北保育園) 【3】沿線地域での利用者増を目的とした周知チラシの作成・配布等の活動を支援した。 【4】地域の公共交通のあり方の検討を進める中で、乗合タクシーの導入についても検討を行った。(継続中) 【5】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることのできる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p>	<p>C ・R2年度目標2.80人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は2.07人/1運行であり、未達成(参考:R1年度2.54人/1運行) ※今から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 ・過疎や通学利用の高校生の減少に伴って利用者が減少していることも考えられる。(高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。)</p>	<p>・引き続き市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する ・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮) ・上記のほかにも利用促進策として、1回10円でバスに乗車できる「10円バスの日」や運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度についても継続的に取組みながら、新たな利用促進策についても検討を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名: 伊那市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業社名 ・ジェイアールバス関東(株) 中央道支店 運行系統名 ・長谷循環バス1	高遠～非持～岩入 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】	【前回の事業評価結果】 【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。 【3】「守り育てる会」の活動を支援し、利用促進等の取組を進める。 【4】地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。 【5】利用促進の取組を継続する。 【反映状況】 【1】高齢者教室等での説明を実施した。 【2】バス育の市内保育園への横展開を実施した(富県、竜北保育園) 【3】沿線地域での利用者増を目的とした周知チラシの作成・配布等の活動を支援した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	C ・R2年度目標3.84人/1運行に対して、R1年10月～R2年9月の実績は2.41人/1運行であり、未達成(参考:R1年度4.10人/1運行) ※今回から1運行(=1往復)あたりの利用状況を指標としている。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 ・過疎や通学利用の児童生徒の減少に伴って利用者が減少していることも考えられる。(小中学校よりも遠距離となる高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。)	・既存の路線バスと、R3.4月から運行を開始する乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 ・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組む。 ・上記のほかにも利用促進策として、1回10円でバスに乗車できる「10円バスの日」や運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度についても継続的に取組みながら、新たな利用促進策についても検討を進める。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)
事業社名 ・ジェイアールバス関東(株) 中央道支店 運行系統名 ・長谷循環バス2	高遠～非持山～粟沢駐車場～岩入 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】	【3】沿線地域での利用者増を目的とした周知チラシの作成・配布等の活動を支援した。 【4】バスの利用状況調査を実施し、地域の公共交通のあり方の検討を進め、R3.4月から路線バスを減便し乗合タクシーの運行を開始することとなった。 【5】新たな取組として、1か月間誰でも10円で路線バスに乗ることのできる利用促進策「8月は毎日10円バスの日」を実施した。(コロナ禍における移動支援の位置づけでも実施した新たな取組)			